

見るだけの池からふれあえる水辺へ

柏の葉アクアテラスは、閉ざされた調整池をリノベーションし、市民が憩える活気あふれる親水空間を創出しました。公民学連携による街のバリューアップを実践したプロジェクトです。



夏の夕暮れ時に法面ベンチで思い思いに寛ぐ人々。

公民学連携で街のビジョンをつくる

敷地は、千葉県柏市の北西部にある柏の葉キャンパス駅周辺。東京大学や千葉大学が立地する緑豊かな土地に、2005年につくばエクスプレスが開通し、駅前を中心とする区画整理事業を契機に、柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）を核とした公民学連携による先鋭的なまちづくりが推し進められているエリアです。

駅前に住宅街区を整備した後、2014年から駅の北側地区の約25haのまちづくりが本格化。その開発ビジョンの作成から日建設計の都市デザイングループが参加しました。UDCK、千葉県（区画整理事業主）や柏市（管理者）、三井不動産などの民間事業者とともに、昼間人口を増やすため複合用途型の開発とすること、自然を生かした屋外交流拠点を中心に整備するなどの方針を作成しました。



調整池を中心にした柏の葉の将来マスタープラン。

取り残された場所を市民が憩う公共空間に再生

気候変動などによる集中豪雨から都市を守るため、雨水を貯める調整池は重要な都市施設です。しかし、貯水という単一機能を満たすに留まり、市民の生活空間と切り離されたグレーインフラになっていることが多くあります。柏の葉エリアの中央に鎮座する調整池も、以前は管理のために約800mの外周が高さ1.8mのフェンスで囲われ、立ち入り禁止でした。この閉鎖的な調整池を、人のための空間資源として捉え直すことからスタートしました。

日建設計は、水辺のランドスケープなど公共空間全体のデザイン統合・監修を担当。池泉回遊式庭園をイメージし、市民が池の周辺で多様な居場所や通り道を発見しながら、水辺の自然に癒される空間として再生しました。



従前のフェンスに囲まれた調整池（左）と整備後のアクアテラス。

立場を超えた共創で叶えたシームレスで活気ある空間

市民が水辺を活用するための一番の課題は、人がどこまで水に近づけるようにするかということでした。貯水機能の保持と安全性を重視する行政、街との接続性や回遊性の向上を望むUDCK、池の畔に誘致した商業施設(T-SITE)との一体性を期待する三井不動産などさまざまな視点からの要望がありました。公民学の関係者が同じテーブルについて進められたデザインプロセスでは、水辺空間の見え方や感じ方などを具体的なビジュアルで示すことで目指すべき空間イメージを共有しながら、関係者の合意形成を図りました。

平時は誰でも水辺に近づくことができるよう、外周を手すりで囲みつつも、池に下りるためのゲートを6箇所設けました。ジョギングなどを楽しめる外周の歩道と管理用通路を兼ねた池底の歩道が二重の回遊動線になっており、それを階段やスロープでつないでいます。さらに池の中央には対岸とつなぐブリッジを設けています。

また、緑豊かな法面にベンチを設けたり、T-SITEに近い位置には池を一望できる張り出しデッキにカウンターとスツールを設置したり、水辺を楽しむ多様な居場所を設けています。その他、噴水や井戸水を利用したカスケードなどが、景観に変化をもたらします。

公民学の連携により道路と池の境界面のランドスケープを一体的にデザインすることができたため、池を囲む商業エリアからシームレスに水辺へと人を呼び込めるようになりました。なお、ゲートの門柱の照明は、水位センサーと連動しており、降雨時に一定以上の水位になると赤く点灯し、注意喚起の装置にもなっています。

維持管理は、UDCKが市と協定を結び行っています。住人によるNPOも参画してゲートの開閉を行うなど、地域との連携がアクアテラスの運営を支える重要な要因となりました。

自然と共生する柏の葉モデルの可能性

地球温暖化や生物多様性の喪失、子どもの遊び場の減少、地域コミュニティの希薄化などの諸問題に対して、自然の力を活かしたデザインで解決するグリーンインフラの整備は、持続可能な社会のための重要な課題です。アクアテラスでは、池底の遊歩道には手すりを設けず、池に近づくことができる一方、注意喚起として水際に水質浄化機能をもつ常緑の水生植物を植えています。また、法面にはチガヤやススキといった在来草本類を植え、水辺の原風景を創り出しています。日々の生活の中で自然との結びつきを取り戻し、思い思いに過ごせるサードプレイスとして親しまれている他、夏祭りや野外映画祭などさまざまなイベントにも活用されています。

都市に残された遊休地や調整池など単一機能しか持たないグレーインフラの改善のために、公民学が同じ目標に向かって協力すれば、都市に人と自然、人と人をつなげる機会を増やすことができる、その可能性を広げる新たな空間資源となりました。



アクアテラス断面 周辺との境界をつなぐデザインにより、多様な活動がシームレスに展開する回遊性の高い空間が実現された。



調整池に張り出した見晴らしデッキとスツール 水面への視線を妨げない視線の高さの設定と軽やかな柵のデザインが特徴。



水際で虫取り網を持って生き物を探す子どもたち。



法面の親水テラスと水面に浮かぶステージを活用した夏の野外映画祭。

プロジェクト名称: 柏の葉アクアテラス 建築主: 千葉県、柏市、三井不動産株式会社
竣工年: 2016年
受賞歴: 2018年国際ランドスケープアーキテクト連盟賞、2019年日本造園学会賞作品部門等